

二〇二二(令和五)年度 社会福祉法人 南風会 事業報告

事業報告概況 法人全体

2023年度(令和5年度)は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類と指定が変わり、脱コロナを迎えたが、現実には、新型コロナウイルス感染症対応から脱することが出来なかった。現実には、2023年度末まで入所施設の職員への毎週のPCR検査は、終わらず、合計7回目のコロナワクチンの集団接種を行ってきた。毎日ではないが、発熱者が出ると抗原検査も引き続き行ってきた。今年度は、新型コロナウイルスのウイルスとしての勢いが落ちてきたのか、あらゆるウイルスや細菌が活性化し、多様な感染症がクラスターにはなりませんでしたが、年間を通して発生しました。職員や通所利用者、短期の利用者、またその家族が、新型コロナウイルス感染症に罹患することがあり、青梅拠点では、12月にクラスターも起こりました。幸い、罹患利用者のうち1名を除いては、無症状でした。新宿拠点では、インフルエンザのワクチン接種をしていたにもかかわらず、インフルエンザのクラスターが発生しました。重篤な状況に陥る者は無かったようです。さて、今年度は、表向きは、通常に戻すということ、行事や外出行事も

再開しました。入所施設のサービスでは、食事の際アクリル板やフェイスガードなども使い続けました。

今年度も人事考課制度の運用を行い、考課者研修も前年度に引き続き行い、前期、後期の常勤職員の考課、非常勤職員の考課を行い、職員にも各自の成長の目標を示すことが出来てきた。各施設の主任が集まり、部下の育成を図るためリーダー・チーフ層向け研修、コーチ・アドバン層向け研修を企画し、自ら考え、部下を育てること等を学んでもらった。

法人運営の中心として「経営推進会議」には、指田修理理事長にも毎回参加いただき、協議を進めてきた。税理士法人報徳事務所にもご指導いただき、事務局も安定してきて今年度決算まで、大きな過誤を起こすことなく進んでくることが出来た。

青梅学園は、コロナ禍の影響も残り、やや活動に制限のある中、日中活動は、フロア中心に行ってきた。また、2回の日帰り旅行を実施し、また、グループでの外出も実行したりした。納涼大会は、夏まつりと銘打ち、地域の自治会や障害者団体の協力も得て、出店を出して、食べ物などを購入し、楽しんだ。暑さ対策のため、利用

者ご家族は、地域交流ルームにて盆踊りを踊って楽しんだ。秋祭りは、地域交流ルームにて新町中学校ブラバンドの皆さんを招待し、演奏してもらい、太鼓の先生の演奏も聞くことも出来た。青梅学園・かすみの里利用者による出し物も行った。ケアホーム南風イーストの開所とともに、60年間青梅学園で暮らした利用者地域移行させた。また、食事が充分口から取れなくなった利用者を1名高齢者用の病院へ送り出した。

かすみの里は、就労継続支援B型事業では、受託作業としてベアリングの組み立てとチューブのマーク付け、組み立てを中心に行った。自主作業としてシフォンケーキ製造販売を行い、青梅市役所のだんだんでの販売も順調で、固定客もあり、売り上げを上げた。また、年度後半には、企業の地域貢献として末広工場団地の住友金属鉦山さん、ベスト青梅さん、武州工業さん日野グローバルロジスティクスさんへの販売を開始した。その結果、目標工賃をこえる工賃の支払いを今年度も可能とした。生活介護事業では、働く生活介護では、午前中は、歩行訓練と音楽、音楽療法等を行い、午後は、作業を行うようにした。前年度と同様に「銀のさら」のチラシの組み込みと「フジライフ」のウエスを100枚ずつ広げる仕事を中心に行い、目標の工賃は、支払うことが出来た。また、ベルマーク活動にも協力し、東京都で一位、日本全体でも3位の成績を

上げた。重度のグループは、個別な指導を充実させ、入浴を週4日行い、生活を中心に支援しました。また、ケアホーム南風との協力関係を充実し、かすみの里の利用者の短期入所利用なども続けて行えた。日向の家のバックアップは、今年度も研修の協力程度で、コロナ禍で、訪問回数も少なくなりました。

ケアホーム南風では、前年度から「かすみの里」へ通えなくなっていた利用者を青梅学園に入所してもらった。その代わりに新宿拠点より1名入所してもらった。通所先を本人と一緒に探し、他法人の「なかま亭」に通所することとなった。情緒が不安定なこともあったが、通院等の対応をし、服薬支援をしている。新設の共同生活援助を計画し、建設や書類準備や東京都との交渉、職員採用などを進め、3月1日に無事に開所することが出来た。また、夜間支援等の関係から、今までのケアホーム南風を女子棟とし、新設のケアホーム南風イーストを男子棟とした。両ケアホームとも3月31日までに、全利用者が入所した。相談支援事業所くらやしきは、青梅拠点の利用者を中心に、100ケース以上を担当し、外部の相談者も含め、サービス等支援計画の作成やモニタリングを行ってきた。

新宿拠点は、シャロームみなみ風も9年目を迎え、安定した運営

が出来るようになってきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対応は、継続してきた。通所利用者やスタッフの中には、罹患する者もいたが、クラスターを起こすことなく、過ごすことが出来た。前述もしたが、年度末にインフルエンザのクラスターが起きてしまった。また、九年目を迎え、2名の利用者を天国に送ることとなってしまった。日常的には、通常通り、音楽療法なども外部講師に来ていただき、楽しい活動を提供してきた。ご家族との面会や帰省は、ほぼ正常通行行った。就労継続支援B型・カフェおんぶらーじゅは、前年度は、お店が開けない時期もあり、お弁当の作成に力を入れたが、今年度は、お店での販売とお弁当の販売両方を行い、週末の夜の営業も月1回行ってきた。その結果、収入も増え、平均工賃を45,000円を超えることが出来た。

採用は、マイナビの応援もいたしながら、法人全体としても中規模法人を目指し、毎年定期的な採用を行い、優秀な人材を採用し、育て上げ、法人の力にすることを目的にしているわけだが、今年度も新人の採用は、必要人数を確保できた。

理事会評議員会を定例的に開き2023年度（令和5年度）の事業の推進を図った。今年度は、QC活動で作り上げた、かすみの里の工賃規程の変更等を行った。又、

独立行政法人医療機構へは、借入金償還金も含め、滞りなく、支払いを行った。

保健衛生関係は、日常的には、健康診断、適宜の通院や訪問歯科等を利用して健康保持に努めてきた。また、医療機関にも協力いただき、個別の疾病等による受診や入院手術なども対応してきた。

以上事業の概況報告とさせて頂く。

